

岳南会ニュース

第35号

発行
令和7年1月1日
長野県野沢北高等学校
岳南会
TEL 0267(62)0020
TEL 070(4306)5364
印刷 (株)佐久印刷所



2023年新海誠先輩 特別講演会(令和5年11月15日)



岳南会会長
吉岡 徹
(57回)

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、恙なく新春をお迎えになられたことと存じます。
コロナ禍の影響のなお残る中、昨年母校は例年を上回る進学実績を記録しました。柳澤校長先生以下教職員の皆様のご尽力と、生徒諸君のためめぬ



学校長
柳沢 敬

先進的な学びの展開

岳南会の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より物心両面にわたるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
十月、佐久新校懇話会において「現野沢北校地の拡幅決定」が公表されました。開校以来、高い志をもった学生の学びの舞台であり続けた本校校地が、未来の学びの拠点として充実が図られますこと、皆様の絶大なご支援の賜物と、改めて感謝申し上げます。
今年、本校が探究的な学びの研

究を始め、同窓会として先ずは深甚なる敬意と感謝の意を表したいと思っております。
さて、母校と野沢南高との再編による普通科新校(以下「新校」といいます)創設の進捗状況についてです。
新校は来る令和十一年、教職員を含め千人を超える大規模校として母校校地に開校予定ですが、最大の懸念は通学路の安全性の確保です。私たちはこの一年間、南側片道一車線しかない現状の通学路に加え、校地を西側国道141号線まで拡幅し車両専用通路を確保することで、徒歩・自転車での登校生と送迎の保護者の車両との動線の明確な分離を求めてきました。ようやく県教委もその方向に動き始めてきました。(詳細は10ページの篠原副会長・再編検討委員会委員長の報告をお読みください)
もう一点、前山の貞祥寺に建立されている戦没同窓先輩を祀る「太平洋戦争戦没者慰霊碑」の護持と慰霊祭の充実についてです。お陰様で昨年は多くの参会者のもと、しっかりとした慰霊式を行うことができました。(詳細は8ページの報告記事をご覧ください)。

最後に周年同窓会からの寄付金の扱いの変更についてご報告いたします。ご承知のように私たちは、卒業30周年及び50周年の節目に同期全体の記念同窓会を開催し、その都度母校へ多額の支援寄付をしております。
実は学校現場には様々な事情によりこの多額の寄付金の扱いに苦慮している現実がある一方で、寄付した側では寄付金の使われ方を知る方法がないという不都合がありました。
このような状況に鑑み、今後この寄付金は一括して岳南会会計に新設する「学校支援特別会計」に組み入れ、学校の要請に基づき補習授業や学習機器購入等への支援に臨機に運用することとします。会計報告も毎年行います。
こうした寄付金のスムーズな有効活用により、母校の進学実績のさらなる向上を図り、ひいては新校の魅力に近づけていきたいと考えております。
末尾になりましたが、本年が皆様にとりましてより健やかで実り多い年となりますよう祈念いたしまして新年のご挨拶いたします。

令和三年には中央教育審議会「令和の日本型教育」の中で「探究を軸に、個別最適な学びと協働的な学びの実現」が、令和五年には長野県の第四次教育振興基本計画で「個人と社会のウェルビーイングの実現」と「探究県長野」を目指す方針」が示されました。本校生に身につけてほしい力の視点で、職員が議論を重ね育ててきた「野沢北の探究」は、未来の学校構築事業(スーパードラッグ)の後押しも受け、全国の先進事例となりつつあります。
本校の探究における特色の一つは、多彩な外部サポーターや大学生メンターによる支援にあります。このコンソーシアム(相互に力を合わせ目的に達しようとする組織や人の集団)は、同窓会の皆様のご協力で年々拡大し、連携コーディネートのご尽力によって生徒と深く結びついています。こうしたシステムは、他県の高校や教育委

員会等、多方面から関心が寄せられる現状を生み出しています。十月の文部科学省による視察では、コンソーシアムに支えられた探究のシステムと同省指定のDXハイスクール事業も加えた、本校の現在の学びの評価と新校構想への期待が示されました。
また、難関大進学支援や本校生による中学生への学習支援がアカデミックサポーター事業として拡大したり、生徒会やクラブ活動が停滞する県内進学校が多い中、準備を含め半月を費やす日輪祭への取組、DXハイスクール事業を活用した科学的な運動班支援、生徒の眼を世界に拡げる野沢北独自のカンボジア研修の実施等、同窓生の皆様の絶大なご支援は、在校生の学びの充実や新校構想に確実に繋がっております。
今後とも引き続き、温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

人はご縁が9割



国立研究開発法人防災科学技術研究所／筑波大学

白田裕一郎(88回)

術者・実務者と日々研究に励

私は茨城県つくば市にある国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)で、文字通り、防災に関する研究をしています。地震、津波、火山噴火、洪水、土砂災害、雪氷災害―災害大国である我が国において、防災は常に大きな課題です。特に令和6年は、元日の能登半島地震と9月の水害、南海トラフ地震臨時情報の発表、迷走して長く留まった台風第10号などがあり、災害が年々頻発化、巨大化、複雑化してきたと実感しています。そんな災害に対し、情報やデジタル技術を活用し、社会の防災力を高める仕組みを作るべく、様々な研究者・技



んでいます。

さて、今回の寄稿を依頼され、改めて自分の歩んできた道を振り返ってみたところ、野沢北・岳南会の方々との出会いが、いろいろな場面で私を助けてくれたことに気づきました。ここでは、そのご縁について紹介させていただきます。

今では生業となった防災ですが、野沢北時代から関心があつたわけではありません。得意とする分野・科目がなく、3年生になっても文系か理系か決められず、「文転できるから」という理由だけで理系を選んだほです。理系の場合、社会は一科目選ぶのですが、地理か世界史か迷った末、地理を選ぶとG類(全員男子のクラス)になると知り、急遽、世界史に変更するという「不純な」選択もしました。しかし、この優柔不断さが後に思わぬ形で功を奏することにになります。

一浪後、慶應義塾大学環境情報学部に進学しました。入学早々、英語のクラスで、後ろの席の学生と自己紹介。

「Where are you from?」

「Nagano,」

「Which high school did you graduate from?」

「Nozawakita,」

「うそ?。(もはや日本語)」。最初の会話の相手が、なんと野沢北の一学年下、加藤貴昭君でした。彼はその後、慶大野球部主将や大リーガーを経て、現在は同大学教授兼野球部部长として活躍しています。

大学時代、私が魅了されたのは人工衛星による地球観測です。目の前にあるものを最も遠い場所から観測する―地球の美しさとともに、森林破壊や砂漠化、無秩序な都市化などの問題を発見できる実用性に惹かれました。大学院に進学し、一度就職した後に助手として戻り、その間に博士号を取得しました。野沢北といえは宇宙飛行士の油井亀美也さん。この原稿執筆時点ではまだお会いしていませんが、発行される頃までには?期待しています。

その後、防災科研に入所し、初めて防災に携わることになりました。研究所の定員枠が運よく空いたタイミングでした。入所後に知ったのですが、私の入所直前に研究所を去ったのが、野沢北一学年上、元吉忠寛さんでした。現在は関西大学教授として、同じ防災分野で

活躍されています。

研究所には、地震観測や大雨予測、室内での雪の実験など、各分野の専門家が揃っています。防災への関心も専門性も乏しかった自分には場違いかもしれないと一瞬思いました。しかし、そこで発想を転換しました。「防災は誰もが取り組むべきこと。だとすれば、むしろ無関心で専門性のない自分こそ、社会に役立つ場面があるはずだ」。この考えが、私の立ち位置を作っていました。野沢北時代、得意分野がなかったことが、思わぬところで活かしてきたのです。何が役立つかわからないものです。

自分なりの防災研究の方向性が見え始めた矢先、東日本大震災が発生しました。人とのつながりの重要性を痛感し、



個々人がより密接につながる新しい防災の形を目指して、Twitter & LINEなど、誰もが使える身近なアプリを活用した防災研究を始めました。そこで再会したのが、現在LINEのCEOを務める同学年の山本剛君。軟式庭球班でダブルスを組み、練習後は自転車と一緒に帰宅する仲でした。このような縁が巡り巡って新たなつながりになるー本当に嬉しいことです。

在外研究員として一年間フィンランドに滞在した際には、日本とのつながりが薄れ寂しく感じていたところ、野沢北先輩である小林克己さんから

Facebookの岳南会グループへの誘いを受けました。これにきっかけに、なかなか会えない多くの同級生や同窓生とつながりを持つことができるこのグループは、今や世代を超えた555人がメンバーとなっています。実に素晴らしいネットワークです。

これを機に、新たなつながりをもつと積極的に作ろうと、研究所に隣接する筑波大学との協働大学院設立の話が持ち上がった際、真っ先に手を挙げました。「理工情報生命学術院システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラム」という舌を噛み



ような長い名称ですが、教授として博士課程学生の研究指導に当たっています。この縁で、筑波大学出身で野沢北の校長も務められた田澤直人先生とつながり、現役の野沢北高生たちが見学に訪れてくれたりしました。工学系では教員1人あたりの博士後期課程学生は0.5人程度だそうですが、私の研究室には8人が在籍中。いつか野沢北出身の学生が当研究室の門を叩いてくれることを切に願っています。

研究所に入所して



もうすぐ20年。現在は社会防災研究領域長、総合防災情報センター長、防災情報研究部門長を兼務し、研究所の運営にも深く関わっています。野沢北先輩であり、地震が専門の望月将志さんが同僚でおられます。また、国立研究開発法人には、外部の方々にも運営を審議いただく部会があり、その委員として、野沢北一学年以上の先輩でジャーナリストの瀧澤美奈子さんにご指導いただいています。

佐久の防災にも携わっています。令和元年東日本台風では、佐久地方をはじめ長野県は大きな被害を受けました。私は災害時情報集約支援チーム「ISUIT（アイサット）」の統括として、内閣府とともに長野県庁や佐久

市役所への支援に入りました。その際、佐久市志賀地区で陣頭指揮を執られていたのが、野沢北で英語を教わり、慶應大学の先輩でもある神津浩一先生でした。また、佐久市の災害対応を牽引した柳田清二市長ともつながり、私が理事長を務めるA I防災協議会や防災DX官民共創協議会にも早々に参画いただきました。

その後、佐久広域連合、小諸消防署、佐久商工会議所、小海町、関東のうすだ会など、

多くの場で講演の機会をいただくようになりました。Facebookでつながった土屋政紀さんや佐々木愛歌さんには講演会に足を運んでいただき、そこから新たなつながりも生まれました。地元からお声がけいただけるのは本当に嬉しいことです。呼んでいただいたら必ず伺う、育ててくれた故郷に少しでも恩返しをしたいと常に考えています。令和6年正月の岳南会総会でも講演の機会をいただいています。ただ、能登半島地震の災害対応のため、急遽、吉岡徹会長に電話して中止をお願いしました。大変ご迷惑をおかけしたにもかかわらず、秋になつたにもかかわらず、秋になつて吉岡会長から電話をいただき、令和7年の総会でリベン

ジ講演をさせていただけることになりました。本当にありがたいことで、今度こそ実現できることを祈っています。

野沢北・岳南会のご縁にはお世話になりっぱなしで、感謝の念に堪えません。すべての方のお名前を挙げきれず申し訳ありません。そして、防災といえれば映画監督の新海誠さんにはまだお会いしていませんし、まだまだお会いしたい方々がたくさんいます。これからも、ぜひつながりを大事にしていきたいと思えます。

最後に、私にとって特別なお縁を紹介。10数年前、野沢北同学年の渋谷美由紀さんと、ひよんなことから東京で出会い、お付き合いを経て結婚しました。現在は一人娘とともに、3人でつくばで暮らしています。野沢北時代は二つ隣のクラスだったにもかかわらず、実はお互いをまったく知りませんでした。そんな二人が、卒業ウン十年を経て、故郷を離れた東京で初めて出会うーこれもまた、野沢北・岳南会のご縁なのでしょう。本当にありがとうございます。



90回卒業生30周年

諸先輩方の伝統に倣い、去る令和6年8月12日に第90回卒業生の卒業30周年記念事業を開催させていただきました。当日は、岳南会会長、野沢北高校校長、学級担任の先生をはじめ本校のOBであります南相木村長、小諸市長、佐久市長を来賓に迎え、各クラスの幹事さんの熱心な声掛け、協力のおかげで150名の同窓生にご参加いただき式典及び大同窓会を盛会のうちに終えることができました。

式典の前には学校と岳南会担当の井出先生のご理解ご協力のもと学校見学をさせてもらうこともできました。野沢南高校との統合も決まり新校の建設の計画が進む中、私達の学び舎を見れる貴重な機会ということで多くの同窓生が学校見学に訪れ在校時とほとんど変わらぬ校舎を見て当時を懐かしんでおりました。

思い返してみますと諸先輩方は、母校への並々ならぬ愛と誇りをもって各界で活躍なさっております。今回、記念事業を通じ私達90回生も青春時代を共に過ごした仲間と再会し高校時代の思い出に浸りながらも、これから先の人生を見つめ直すよい機会となりました。私達90回生も大切な仲間との思い出と母校への愛を胸に、次に皆で集まれる日を楽しみに邁進していきたいと思えます。



支部から

紙面の関係で、簡単な紹介です。詳しくは岳南会ホームページをご覧ください。

小諸支部

10月18日金曜日、小諸高原ゴルフクラブにて「第4回 岳南会小諸支部主催親睦ゴルフコンペ」を開催しました。心配していた雨予報は外れ、絶好のコンディションの中、33名9チームがゴルフを楽しみました。小諸支部会員だけでなく、佐久支部や遠方からの参加者もあり、同級生のゴルフ仲間チームや世代を超えた混合チームで親睦を深めました。結果は以下の通りです。

- 優勝..66回卒 清水和正さん
- 2位..66回卒 小山八郎さん
- 3位..63回卒 堀籠 節さん

夕方からは勇志により懇親会が行われ、更に友好が深まり素晴らしい一日となりました！



岳南会 令和7年総会のご案内

日時 令和7(2025)年1月5日(日)
場所 佐久グランドホテル2F
佐久市中込 ☎0267-62-0031

日程 総会 ●13:00～
議事:会務・会計報告、高校再編等
記念講演 ●14:15～
演題 「改めて、地域防災を考える」
講師 国立研究開発法人 防災科学技術研究所
総合防災情報センター長
筑波大学 教授 白田裕一郎氏(88回卒)

吹奏楽班 新春演奏会 ●15:45～
懇親会 ●16:00～ 会費 6,000円

連絡先 岳南会事務局(野沢北高校内)
☎070-4306-5364

御礼

昨年いただきましたご寄付について

まず本同窓会への活動協力金について御礼とお願いを申し上げます。この「岳南会ニュース」に同封して毎年お願いしております協力金ですが昨年は計1425件、244万8328円を頂戴いたしました。ご協力が心から感謝申し上げます。この協力金は母校の生徒の学習指導への支援にも使わせていただいております。本年も何とぞよろしくお願い致します。

次に本会恒例の卒業30・50周年記念同級会からの寄付金です。

昨年は卒業30周年、90回卒の皆さんから181万円を、また卒業50周年、70回卒の皆さんから120万円をそれぞれご寄付いただきました。誠にありがとうございます。

この周年寄付は我が岳南会の確固とした伝統として新校へも引き継いでいきたいと思います。

(会長 吉岡徹)

令和6年度 岳南会 一般会計決算書

会計期間 令和5年11月16日～令和6年11月15日

収入総額 19,109,840円 支出総額 8,434,273円 差引残額 10,675,567円

【収入の部】

単位:円

項目	収入済額	備考
入会金	1,206,000	6,000円×201人(令和6年4月入学生・8月編入生)
卒業生終身会費	1,850,000	10,000円×196人(令和6年3月卒業生)
総会会費	264,000	
事務費	450,000	岳南塾より事務職員人件費補助
岳南会館維持管理費	502,500	2,500円×201人(令和6年4月入学生・8月編入生)
進路指導支援費	502,500	2,500円×201人(令和6年4月入学生・8月編入生)
岳南会活動協力金	2,448,328	郵便局(772,078)・コンビニ(1,660,250)・現金(16,000)
繰越金	11,462,016	
雑収入	424,496	120周年記念誌会計より(423,410)・利息(1,086)
合計	19,109,840	

以上相違ありません。

令和6年11月26日

会計監査 篠澤 一平

木内 清

荻原 泰昭

【支出の部】

単位:円

項目	支出済額	備考
会報発行費	2,373,243	会報印刷費、封筒印刷費、振込用紙印刷費、郵送料等
総会費	642,350	会場費、講師謝礼、総会案内用往復葉書等
役員会議費	269,281	三役会、代議員会、会計監査等
支部会議費	406,700	祝儀、旅費等
高校再編検討会議費	72,000	旅費、活動費等
慶弔費	460,737	饂飩、香典、祝儀、卒業証書用ホルダー、新入生校章バッジ等
学力充実支援費	500,000	進学補習費(OB講師)全国学校視察費等
クラブ等後援費	559,666	1,000円×200名、全国大会祝儀・祝垂幕費、広告代等
進路指導支援費	600,000	進路指導支援
岳南会館維持管理費	770,197	会館電気料、暖房費、補修費等
事務費	855,920	事務職員人件費、事務用品、葉書、封筒、切手等
ホームページ管理費	277,289	各月ホームページ更新・管理
予備費	646,890	慰霊碑前樹木伐採(429,000)・新海監督講演会諸費(217,890)
合計	8,434,273	

野球班 創部120周年に寄せて

〜野球班創部120周年記念試合開催に関しての御礼〜

篠原 俊介(93回)

野球部を復活させた先輩方



1904年(明治38年)、産声を上げた野沢北高校野球班は、戦争中に休止した時期はありましたが、本年度120周年を迎える運びとなりました。現在、母校にて野球部の現場を担当させていただいている者として、改めてその歴史の重みと、これまでの長きにわたって、北高野球班を現代まで繋げて頂いた諸先輩方に、改めて感謝と大きな敬意を感じるところであります。創部100周年を記念して、2005年に創刊された、「創部100周年のあゆみ」から、草創期からの野球班の歴史について思いを巡らせつつ、120周年に対する思いを述べさせていただきます。申し遅れましたが、私は93回卒業で、現在母校野球班にて監督をさせていただいております。篠原俊介と申します。

の歴史の深さを感じさせられます。また、選手権大会が始まる前、1909年には、外国人チームとの交流試合を行い、勝利を収めたという記録も残っています。当時の写真を拝見すると、その頃から白に胸に「NOZAWA」の今と変わらないユニフォームを纏った先輩方が写っています。この時代まで続く伝統を感じさせられるものです。その後、1937年に日中戦争の勃発と同時に、日本が戦時体制に入ったことで、一時廃部を余儀なくされました。戦後、敗戦後の苦しい中で、当時の先輩方が、イモ畑となっていたグラウンドの整地から始めて、野球部を復活させてくれました。当時、野球部復活に携わった先輩の文章の中には、野球ができることは平和を実感することと重なる点がありました。当たり前のように野球ができることを、改めてありがたいことだと実感すると同時に、その時の先輩方の努力や思いがあったからこそ、今があるということを深く考えさせられました。

その後、1974年の創部70周年の年に、念願の甲子園出場を果たしました。佐久地域からは初の甲子園出場であり、その20数年後に入学した私たちにとっては、半ば伝説的な出来事となつて、語り継がれていました。私としては、自分が生まれる前のことであり、高校時代は正直意識することすらできない

ものでした。しかし、教員になり、また母校で勤務するようになると、その時代の先輩方の活躍した資料を様々な場面で触れる機会があり、否が応でも意識するようになっていきました。現在現場を預かる者として、現代の生徒に当時の活躍をどう伝えていくかは、難しい面もありますが、部員たちには大きな目

▶甲子園開会式(1979年)



TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E	B	S	O	H	E	R	
	長野県野沢北高等学校																			
km/h	創部120周年記念招待試合																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	UMPIRE	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
									PL 1B 2B 3B											
									試合開始											
									試合10											



記念試合後の集合写真

記念の年にあたる今年6月23日に実施することができました。試合の実施に当たっては、本校野球部の女子マネージャーが宣伝用パンフレットを作成し、部員が近隣の商店などに掲載をお願いするなど、普段できない活動も体験することができました。また、招

待試合であることから、多くの経費が必要になりました。その経費については、岳南会長さんや野球部OB会長さんの理解もあり、岳南会・野球部OB会から多大な支援もいただくことができました。岳南会・野球部OB会からの支援がなければ、今回の試合も開催することはできなかったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。今回、記念試合の相手として招待した、千葉県立銚子商業高校は、北高野球部が甲子園に出場した1974年のその大会で、全国優勝をした学校です（もう1校招待する予定だった、群馬県立高崎高校は、天候不良でキャンセルしてしまい残念でしたが...）。その縁で、その後数回、銚子商業には何度か佐久に来ていただいて試合をしたという経緯があり、

今回も記念の試合の相手として選ばせていただきました。直近では、本校第2グラウンドの完成の際に、こけら落としとして試合をしたという関係もありま



記念試合を観戦する両校関係者の方々

以上のように、本校野球部は120年という長い時間をかけて醸成された、多くの思いに支えられて活動ができています。時代とともに、高校生の性質は変化しており、あと数年すると、高校再編で母校も様々な変化をしていく必要があります。そのような中でも、ここまで繋がった野球部の良き伝統は、今後とも変わらず継承していくべきもの

だと考えます。高校野球を取り巻く現状は、刻々と変化していきますが、北高の伝統である「文武両道」「質実剛健」という校風は、時代が変わっても根底の部分では変わらないものだと思います。土台の部分を大切にしながら、新しいことも柔軟に取り入れつつ、時代に合った野球部の実現を目指して、未来につながる現在の責任をもって担当したいと思えます。過去の先輩方が創り上げた歴史を、未来の野球部を創っていく人たちに繋いでいくため、今の活動を大切に、地道に取り組みたいと思います。最後にありがとうございました。





第二十四回 岳南会戦没者等慰霊祭



護持会から岳南会本会が主催を引き継いで3年目となる岳南会戦没者等慰霊祭が、去る6月2日(日)、貞祥寺慰霊碑前でしめやかに行われました。6月第1週の日曜日10時30分が例会の日程として定着しています。

今年の慰霊祭は、広く岳南会支部役員の皆様にもご賛同いただき、東京岳南会はじめ40人を超える多くの参列者が集いました。また、野沢北高校の生徒代表として『世界を考える会』から6人が参加、80年以上の時を隔てて、なお野沢北高校の良心が豊かな流れをつくり、確かに未来に繋がっていく、良質な伝

統の在りようを実感する時間となりました。

雨に煙る緑の木々の間に貞祥寺ご住職岡本春光師(83回)の深い読経の声が流れ、参列者一同237人の先輩方のご冥福と平和への誓いを新たにしました。主催者を代表して吉岡徹同窓会長(57回)、また学校を代表して校長の柳沢敬先生(79回)、生徒を代表して3年生の竹内睦喜(ともき)さん(121回)が追悼の言葉を捧げました。また、参列者を代表して挨拶に立った柳田清二佐久市長(85回)は、慰霊碑にその名が刻まれている小池勇助軍医(3回)にふ



れ、看護隊「ふじ学徒隊」の女学生に生き延びる勇気を与え自ら命を絶った野戦病院「糸洲の壕」(糸満市)の整備と新春早々の竣工式(式典)、そして平和学習推進への決意を語りました。

なお、野沢北高校は今年からこの日、6月の第1日曜日を『平和を考える日』に定めることとしました。



岳南会副会長

篠原秀郷(65回)

令和6年 会務報告(総会 1月5日以降、事務局把握分)

- 1月 5日(金) 第1回役員会・第1回代議員会 令和5年岳南会総会 於佐久グランドホテル 参加者約80名
記念講演 臼田裕一郎氏(88回卒) 筑波大学教授 ※能登半島地震のため中止
- 1月26日(土) 岩村田支部総会開催 出席者 12名 正副会長出席
- 2月13日(月) 第29回再編検討委員会(同窓会館)
- 2月17日(土) 東支部総会開催 出席者16名 正副会長、学校長、事務局出席
第3回佐久新校創設推進協議会(岳南会館)
- 3月 2日(土) 野沢北高校卒業式 会長出席
- 3月18日(月) 臨時役員会 (同窓会館)
- 3月23日(土) 南牧支部総会開催 出席者12名 篠原副会長、学校長出席
- 4月 4日(木) 野沢北高校入学式 会長出席
- 4月13日(土) 臼田支部総会開催 出席者29名 正副会長、学校長、事務局出席
- 4月27日(土) 小海支部総会開催 出席者13名 会長、学校長出席
- 5月25日(土) 関西支部総会開催 出席者15名 会長、学校長出席
- 5月25日(土) 八千穂支部総会開催 出席者15名 篠原副会長、事務局出席
- 5月28日(火) 第30回再編検討委員会(同窓会館)
- 6月 2日(日) 戦没者等慰霊祭 貞祥寺 参加者40名
- 6月 4日(火) 第4回佐久新校創設推進協議会(佐久市役所)
- 6月 8日(土) 東京支部総会開催 出席者45名 会長、学校長、事務局出席
- 7月20日(土) 小諸支部総会開催 出席者30名 副会長、学校長、事務局出席
- 8月 9日(金) 第3回役員会 (同窓会館)
- 8月12日(月) 第90回生卒業30周年同窓会 会長、学校長出席
- 8月12日(月)～16日(金) 岳澄展 野沢会館
- 8月24日(土) 第2回代議員会(佐久グランドホテル)参加者45名
- 9月13日(金) 大沢支部総会開催 出席者10名 正副会長、学校長出席
- 10月18日(金) 小諸支部主催ゴルフ大会開催 出席者35名 会長、事務局出席
- 11月26日(火) 会計監査 監査委員、会長、事務局出席
- 11月28日(木) 野沢支部役員会開催 出席者20名 正副会長、学校長、事務局出席
- 11月30日(土) 第70回生卒業50周年同窓会 会長、学校長出席
- 12月 6日(金) 第31回再編検討委員会(三河屋)
- 12月13日(金) 第3回役員会 (三河屋)

会務計画(今後の予定)

1. 令和7年 岳南会総会(代議員会あり)
1月5日(日) 岳南会総会 10時～代議員会 13時～総会
於：佐久グランドホテル
2. 役員会(年4回 1月・7月・8月・12月)
3. 代議員会(年2回 1月・8月)
4. 各支部総会(各支部ごとに計画)
5. 再編検討委員会(適宜)
6. 戦没者等慰霊祭(6月第1日曜)
7. 「卒業周年記念同窓会」；30周年(91回卒)・50周年(71回卒)
8. 岳南会ニュース発行、協力金依頼(12月下旬)
9. その他



岳南会再編検討委員会 活動経過報告

2024年の活動は、前年6月に発足した「佐久新校創設推進協議会」に拠って、昨年の本欄で解説した「重要3項目」の実現を企図して進めてきました。「重要3項目」とは、校地の拡張、通学の利便性・安全性の確保、校舎の全面改築の3つを指しています。以下、2024年9月の段階でこれらの要望がどのような帰趨を迎えつつあるか、実現可能性を含めて説明します。さらに、小中高校生と保護者・一般を対象に実施した意見募集の結果と残された課題について述べ、議論を促したいと考えます。

「重要3項目」、その後

無論、3項目の実現に向けて「佐久新校創設推進協議会」の果たしている役割は大きく、その意思は「提案書」（2024年2月）および「要望書」（2024年4月）として結実、柳田清二会長（佐久市長）、吉岡徹副会長（野沢北同窓会長）、長田芳子副会長（野沢南同窓会長）によって県教育長に手交されて、県教委の検討に付され今日を迎えています。

①校地の拡張と通学の利便性・安全性の確保

通学の安全性を確保し持続させることは、学校設置者の義務に他なりません。特に登校時、北高南側道路（県道相浜本町線）の自動車の激しい往来は、歩行する高校生や中学生にとって危険度が極めて高くなっています。

自動車と徒歩・自転車の動線を分けるため、新たに駐車場を建設することが必要です。北高の西側に校地を拡張して駐車場とし、国道141号から直接自動車を入れる。加えて、探究を核とした学校間交流や大学、企業との連携、将来的な公共交通の可能性などを考慮すると、大型車両の駐車・旋回スペースが必要となります。

10月16日の第22回懇話会（県教委主催）では、わたしたちの要望にそってグラウンド西側に校地を拡張する具体的な計画が県教委より表明されました。佐久新校創設推進協議会をはじめ、校地拡張の実現にご尽力を賜りました全ての皆様に深く感謝する次第です。

②校舎の全面改築

既に第19回懇話会（県教委主催・2024年3月28日）で校舎配置計画の概要が示されていますが、校地拡張が現実化した今、新たに校舎配置の最適化を図るよう県教委に求めています。その際、特別教室棟、音楽室棟、大体育館の既存棟活用については、機能的、快適性を満たす改修を強く要望していくこととします。

広く落ち着いた学習環境は、生徒の深い思考力を育み、新しい世界を創造する力となっていくに違いありません。

意見募集に見る新校への期待

2024年3月までの5か月間で、小中高校生およそ400人、保護者・一般およそ1200人から意見をいただきました。通学の利便性・安全性を求める意見や広い敷地と新しい校舎を求める意見と並び、新校の進学を重視した教育への強い期待に満ちた意見が多く寄せられました。代表的な意見をあげておきます。

○佐久地域に公立の進学校をしっかりと維持してください。

○広い視野で柔軟な思考力を持ち、グローバルに活躍する人材を輩出する教育をお願いします。

これから議論する課題

①新校の学科、学習活動

両校の担当職員および県教委の担当者で構成する再編事務局が、両校職員の意見を集約しながら新校の教育のあり方を検討しています。

現在、『佐久地域の進学校を創る』ため、単位制の採用や「理数科」の発展、充実を図り、難関大学の進学にも対応していくことが研究されています。また、地域には「中高一貫」導入への期待も顕在化しています。

②新校の校名

これまでの先行事例から、校名は募集要項を定めて公募し、その結果を参考に懇話会で選考するということとです。

③新校の同窓会

名称、組織等をこれから研究していきます。「岳南会」は卒業30周年、50周年の記念行事がこれからも長く続くことになると思います。新校の同窓会との関係のあり方を考えて行く必要があります。

岳南会再編検討委員会は、今後も岳南会員の意思を丁寧に取りながら、野沢南高同窓会と連携を密にし、佐久新校の理想像を追求してまいります。

岳南会副会長 篠原秀郷（65回）



進路指導室から

岳南会の皆様におかれましては、平素より本校の進路指導に對し多大なご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。本校の進路の様子についてご報告申し上げます。

▼卒業生の概況
一般入試・今春は旧課程最後の入試でした。新課程入試を翌年に控え、安全志向が強まるとの予想通り、現役合格を望む志向は顕著だったものの、極端な安全志向は見られず、志望校を下げる大きな動きは全国的に見られません。私立大の一人、当たり出願校数は減少を続けており、近年の競争緩和が志望校数を減らす

大学等合格状況 (2024.4.1 現在)

卒業生数		国公立大学		準大学		私立大学		外国大学等		大学計		公立短大		私立短大		短大計		各種/専修		総計	
		現	過	現	過	現	過	現	過	現	過	現	過	現	過	現	過	現	過	現	過
185	現	81	0	220	2	303	0	0	0	0	4	307					4	307			
	過	12	0	59	0	71	0	0	0	0	0	71					0	71			
	計	93	0	279	2	374	0	0	0	0	4	378					4	378			

国立大学合格者数

大学名	現	過	計
北見工業	2		2
東北形	1	1	2
山形	1		1
茨城	2	1	3
宇都宮	2		2
群馬	6		6
埼玉		1	1
千代田	3	1	4
お茶の水女子		1	1
東京学芸	2		2
横浜国立		1	1
上越教育	1		1
新潟	2		2
富山	3		3
金沢	4		4
信州	15	1	16
(人文)			0
(教育)	2		2
(経法)	2		2
(理)	1		1
(医)	4		4
(工)	1	1	2
(農)			0
(織法)	5		5
静岡	2	2	4
名古屋	1		1
鳥取	1		1
広島	1		1
九州	1		1

私立大学合格者数

大学名	現	過	計
岩手医科	1		1
国際医療福祉	2		2
白鷺	2		2
獨協医科	1		1
高崎健康福祉	6	5	11
埼玉医科	1		1
埼玉工業	1		1
駿河台	2		2
日本工業	1		1
文教	7	1	8
神田外語	2		2
淑徳	1		1
城西国際	1		1
聖徳	1		1
千葉工業	6	2	8
帝京平成	1		1
青山学院	1	1	2
大妻女子	1		1
学習院	1		1
北里	6	1	7
共立女子	1		1
杏林	4		4
慶応義塾	3		3
工学院	4		4
國學院		1	1
国士舘	1		1
駒澤	4	3	7
芝浦工業	4	2	6
順天堂	8	1	9
上智	1		1
昭和女子	2		2
成和	1		1
聖心女子	1		1
専修	5	1	6
大東文化	15	1	16
玉川	2		2
中央	2	4	6
帝京	4		4
東海	13		13
東京家政	1		1
東京家政学院	1		1
東京工芸	1		1
東京工業	5		5
東京造形	1		1
東京電機	3	2	5
東京都市	1		1
東京理科	4	1	5
東京薬科	1		1
東京邦	2		2
東洋	10	8	18
二松学舎	1		1

日	本	7	3	10
日本女子	2			2
日本女子体育	1			1
法政	3			3
武蔵	1	1		2
武蔵野	2			2
武蔵野美術	2			2
明星	2			2
明治	4	1		5
明治学院	1	4		5
目白	2			2
立教	1			1
立正	1	2		3
早稲田	1			1
神奈川	4	3		7
神奈川工科	1			1
フェリス学院	1			1
新潟医療福祉	2	1		3
金沢学院	1			1
金沢工業	5			5
高岡法	1			1
佐久	2	2		4
愛知学院	3			3
愛知淑徳	2			2
中京		2		2
中部	1			1
豊田工業		1	1	2
名城	3			3
京都産業	3			3
同志社		1	1	2
立命館	6	1		7
関西	1			1
近畿	2	1		3
大和	1			1

外国大学等合格者数

外国大学名	現	過	計
外国大学	2	0	2

私立短大合格者数

大学名	現	過	計
私立短大	0	0	0

専修・各種学校合格者数

大学名	現	過	計
医療系	0	0	0
その他	4	0	4

就職

	現	過	計
民間企業	0	0	0
国家公務員	0	0	0
地方公務員	0	0	0
団体職	0	0	0
自営	0	0	0
計	0	0	0

動きにつながっています。私立大では、推薦総合型・一般選抜ともに倍率が2倍を切る大学が多くなり、2023年度は私立大学の定員充足率が100%を切り、事実上の全入となりましたが、2024年度も状況は変わりませんでした。

全国的な傾向は本校にも見られ、第一志望に果敢にチャレンジし、国立大では入学全体の約20%、公立大では入学全体の約60%が学校推薦型・総合型推薦で占めており、その割合は徐々に増加傾向にありま

の影響もあり、昨年は39.5%で大幅に減少しました。推薦入試を削減した2021年度入試の推薦入試の全国状況は、学校推薦型選抜と総合型選抜を利用した入学者の割合は全体で50.7%を占め、一般選抜を上回る割合となつています。内訳は、国立大では入学全体の約20%、公立大では約30%、私立大では約60%が学校推薦型・総合型推薦で占めており、その割合は徐々に増加傾向にありま

す。本校の昨年度の推薦状況は出願数で例年のおよそ2倍、合格者数で国立合格者全体の28%を占めました。本校の国立合格者の内訳は、推薦…前期…中後期の割合は例年15%…65%…20%くらいですが、今

年はおよそ30%…40%…30%という比率でした。推薦入試を利用しつつ、前期で第一志望にチャレンジし、中後期で最後まで粘る形で全体として国立合格者数が伸びました。

▼今年度の入試の展望
いよいよ新課程入試がスタートします。教科「情報」が新設されるほか、いくつかの変更があります。新課程による変化は限定的です。情報対策は必須となりますが、本校では夏休みや秋の放課後補習などでサポートしています。新課程入試を迎え、漠然とした負担感から安易に科目を絞ってしまうと、かえって厳しい入試が待っているため、第一志望の進路実現を果たすように支援し

公立大学/準大学合格者数

大学名	現	過	計
釧路公立	1		1
青森県立保健	1		1
福島県立医科	1	1	2
群馬県立女子	1		1
高崎経済	6		6
前橋工科	1	1	2
横浜国立	1		1
長岡造形	1		1
金沢美術工芸	1		1
都留文科	3		3
山梨県立	1	1	2
長野県看護	1		1
長野県立	3		3
長野野	4		4
公立諏訪東京理科	2		2
静岡県立	1		1
滋賀県立	1		1
京都府立	1		1

▼進路実現のために
人工知能(AI)の活用やグローバル化など、急速にさまざまなことが変化しており、未来の予測が非常に困難な時代を迎えています。未来の社会で生きていくために、学校での学びも変化し、それに伴い、大学入試も変わっていきます。本校が指定を受けている卓越した探究的な学び(スーパー探究校)を生かし、進路実現に繋げていきたいと考えています。生徒の進路実現に関わる多くの活動は、多方面で活躍する同窓生の皆様のご支援に支えられております。更なる発展に向け、皆様の一層のご支援を今後よろしくお願い申し上げます。

進路指導係 菊池 文明

班・同好会活動報告 (R5秋から)

東信の顕著な活動・県大会以上を中心に報告します

運動班

●野球

<第106回全国高等学校野球長野大会>
4-1 伊那北
0-8 長野日大

●陸上

<R5県新人>
(男子)

八種競技

竹内睦喜 2位(北信越へ)
甘利悠馬 4位(北信越へ)

走高跳

羽場瑠南 8位入賞

<R5北信越>
(男子)

八種競技

甘利悠馬 12位

<県IH>
(男子)

200m

美斉津岳 5位(北信越へ)

400mハードル

美斉津岳 3位(北信越へ)

八種競技

竹内睦喜 3位(北信越へ)
甘利悠馬 4位(北信越へ)
羽場瑠南 6位入賞

(女子)

100m

松橋弥玖 8位入賞

5000m競歩

後小路葉月 1位(北信越へ)

4×100mリレー

由井・向井・川上・松橋 8位入賞

<北信越IH>
(男子)

八種競技

甘利悠馬 8位入賞

(女子)

5000m競歩

後小路葉月 2位(全国大会へ)

<全国IH>
(女子)

5000m競歩

後小路葉月 予選敗退

●ソフトテニス

<県IH>
(男子)

団体 ベスト16

個人 三浦・中嶋 ベスト32

(女子)

個人 藤巻・堀内 1回戦

●テニス

<R5県新人>
(男子)

団体 2回戦 0-5:諏訪清陵

(女子)

団体 1回戦 2-3:長野西

<県IH>
(女子)

団体 1回戦 0-3:松本学園

個人シングルス

猪熊悠 1回戦

個人ダブルス

大浦・田中 1回戦

<全日本ジュニアテニス選手権長野県予選>
(女子)

個人シングルス・ダブルス

大浦奈緒 出場

●バスケット

<R5県選手権>
(女子)

1回戦 65-110:学園長野

<R5県新人>
(男子)

1回戦 75-108:須坂創成

(女子)

1回戦 62-67:松本県ヶ丘

<県IH>
(男子)

1回戦 36-113:長野西

(女子)

1回戦 58-66:松本蟻ヶ崎・豊科

●バレーボール

<R5県選手権>
(男子)

1回戦 2-0:松本美須ヶヶ丘

2回戦 0-2:岡谷工業

(女子)

1回戦 0-2:田川

<R5県新人>
(男子)

1回戦 0-2:松本美須ヶヶ丘

(女子)

1回戦 0-2:岡谷東

<県IH>
(男子)

1回戦 2-0:長野商業

2回戦 1-2:松本深志

(女子)

1回戦 1-2:松本美須ヶヶ丘

●ハンドボール

<R5県新人>
(男子)

1回戦 21-16:松本第一

2回戦 2-42:東海大諏訪

(女子)

1回戦 6-38:屋代

<県IH>
(男子)

1回戦 16-26:茅野

(女子)

1回戦 8-30:屋代

●卓球

<R5県新人>
(男子)

団体 1回戦 0-3:長野工業

(女子)

団体 1回戦 3-0:屋代

2回戦 3-0:松本国際

3回戦 0-3:中野西(ベスト8)

個人シングルス

小金沢真央(ベスト16)

新海 奏(2回戦)

井出晴晴(1回戦)

美濃七星(1回戦)

<R5北信越選抜大会>
(女子)

個人シングルス

新海 奏(3位)

<県IH>
(男子)

団体 1回戦 1-3:伊那弥生ヶヶ丘

個人シングルス

土谷泰蔵(2回戦)

(女子)

団体 1回戦 1-3:松本美須ヶヶ丘

個人ダブルス

新海・井出(2回戦)

シングルス

井出晴天、依田莉奈、

新海奏(1回戦)

●バドミントン

<R5県新人>
(男子)

団体 1回戦 3-0:伊那弥生ヶヶ丘

2回戦 1-3:松商学園

個人ダブルス

篠原・水野(1回戦)

シングルス

篠原(2回戦)

学芸班

●棋道

<県高校選手権>
(男子)

団体(黒岩、内藤、遠山) 3位

●英語

<県英語レシテーションコンテスト>

沖浦果花 準決勝進出

●吹奏楽

<県アンサンブルコンテスト>

木管3重奏(荻原、美斉津、矢部) 銀賞

<県吹奏楽コンクール>

B編成の部 金賞

●軽音楽

<第19回県高文連軽音楽専門部

Power Live 2023 KF>

[The MERCYS]

[柳沢・細谷・亀井・飯島] ベスト16

[フラミンゴフラペチーノ]

[茅根・田中・前田・飯島・古川] ベスト16

<県IH>

団体 1回戦 0-3:更級農業

個人ダブルス 篠原・水野(1回戦)

シングルス 篠原汐翔(2回戦)

●弓道

<R5県新人>
(男子)

団体A(清水煌、矢口、三尾、原) 出場

団体B(有賀、相澤、星野、森) 出場

個人 清水煌史、相澤寛公朗 出場

(女子)

団体A(三辻、加藤、渡邊、上野) 出場

団体B(小林、高柳、柳沢、児玉) 出場

個人 大井悠歌 出場

<県IH>
(男子)

個人 木内徠夢 8位

(女子)

団体(三辻・加藤・高柳・市村・渡邊) 出場

●水泳

<R5新人>
(女子)

50m平泳ぎ

佐藤美緒 8位

<県IH>
(女子)

50m自由形

掛川美伶 3位(北信越へ)

100m自由形

掛川美伶 5位(北信越へ)

●サッカー

<R5県選手権>
(男子)

1回戦 0-2:諏訪清陵

<R5県新人>
(男子)

1回戦 1-1 (PK 0-2):長野東

<県IH>
(男子)

1回戦 1-1 (PK 4-3):飯田

2回戦 0-3:長野吉田(ベスト16)

編集後記

本年度の岳南会ニュースをお届けできることを大変うれしく思います。卒業から何年経っても、母校での思い出は色褪せることなく、懐かしさとともに新たな発見があることを感じています。

今後も、各分野でご活躍されている同窓生を「岳南ネットワーク」等でご紹介してまいりますと存じますので、心当たりがございましたら事務局まで連絡をいただけると幸いです。

これからも皆さまとの絆を深め、次の世代へと伝えていけるよう、この同窓会報が一つの架け橋となれば幸いです。引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

